

フクシマ

日本の誇り高い矜持に捧げて
イオンの灼熱の中から
消滅せず繰り返し繰り返し蘇る
ガンマ放射の生贄の子羊

鉛の翼をした無言の予言者達は
石棺の中へと
微塵となった青碧の小室へと入り行き
もうこの世の存在ではなくなった
彼らを刻々と満たしていくのは
白く不気味で見知らぬ死

文字のグラフェーム
燃料棒のグラファイト

プルトニウムの大洋には
目に見えぬ幾十万年の光が輝き
太陽を打ちのめす
すべて生あるものを呑み下し
うねる大海の黒波

終焉するスクリーンに
点滅するのは 不安に慄く
ある日本天皇の顔
セシウムほどの不滅さもなく

沈黙としめやかな号泣
そしてまた沈黙
地球の破片は継ぎ目をなくしてしまった

感覚と自己中心感覚以外残るのは
刻々と入れ替わる
決意と反意
残るのは悦びと痛みから程遠い
それぞれの人間の
掌いっぱいの日々

消え入る程に微少で
ゆえに極まりなく重い
限りなく数えあげることができるものと
数えられるもののすべてにおいて
そして終には不可能にも言葉にされたものと
言葉にならないもののすべてにおいて

掌いっぱいの日々
身体の沈黙のため
声と思考の中で分裂した今のため

目にみえない残酷な変身の
あの消滅することない放射のため
数 数式 言葉から
所為と力から巨大な凄まじさに向けての
すべての投擲と投影のため

掌いっぱいの日々に
今 残るのは
精神的形態 そして
恐らく 予感する空間
どのような見知らぬ超感覚をも
言葉を切断する土のマチエールの
類い稀なる不在の要素をも
思い出し 思い起こすため

その予期せぬ変身を
思い出し 思い起こすため
多分パラダイスを
パラ・ディース — 日々をあとにする
光と精髓として
実質性を抜き去り
家を去り行く
今 現世的必滅の秘密として
空前絶後の黙字「し」として
空間を そして無名のものたちを奪う
掌いっぱいの日々に

雪つむじの雲の下 静かに叫ぶものもない
ガンマ放射の生贄の子羊

いよいよもなく朽ちていくものと共に残るのは
最後の息吹があらわにする空虚

残るのは恐らく
宇宙的な魂の核
核の魂を授けられた宇宙
ある神の名前
アイソトープ

スカルダネツリ
訳: 鈴木七恵